

# ヒラメ *Paralichthys olivaceus*



地方名：あおば、てっくい

## 生態

- ①寿命：オス 10 年以上、メス 20 年以上
- ②成熟：オス 2 歳以上、メス 3 歳以上
- ③産卵期：5 月～7 月
- ④産卵場：水深 30m 以浅の粗砂及び砂礫地帯
- ⑤分布：千島列島から九州、東シナ海に分布
- ⑥生態：産卵後 1 日～2 日でふ化し、約 1 ヶ月間の浮遊期間の後に水深 10m 以浅の砂または砂泥域に着底し、成長に伴い深所へ移動する。生息域は水深 100m 以浅の海域。季節的に深浅移動する。稚魚はアミ類を主に摂餌し、成長とともに魚類、イカ類を捕食する。

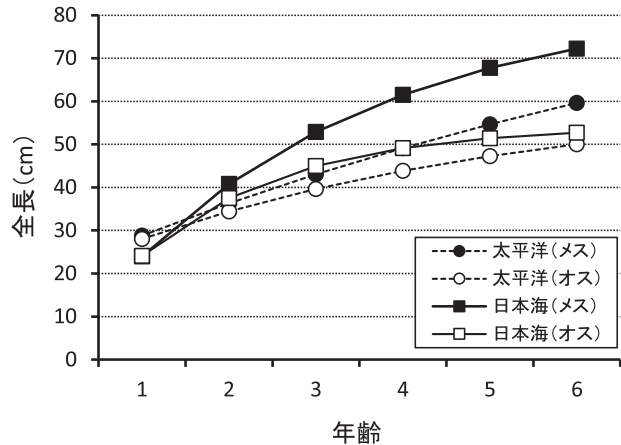


図 青森県におけるヒラメの成長

出典：太平洋：Yoneda et al. (2007) Fisheries Science. 73, 585-592.  
日本海：吉田ら (2011) 青産技セ水研研報. 7, 1-8.

## 主な漁業

ヒラメはほぼ周年にわたって県内全域で漁獲される。日本海から津軽海峡西部にかけては 5 月～7 月に底建網・一本釣りで、陸奥湾から太平洋北部にかけては 5 月～7 月及び 11 月～翌年 1 月に定置網・底建網・刺し網で、太平洋南部では 9 月～10 月に刺し網で、11 月～翌年 5 月に小型底びき網で漁獲される。1 歳、2 歳から漁獲される。

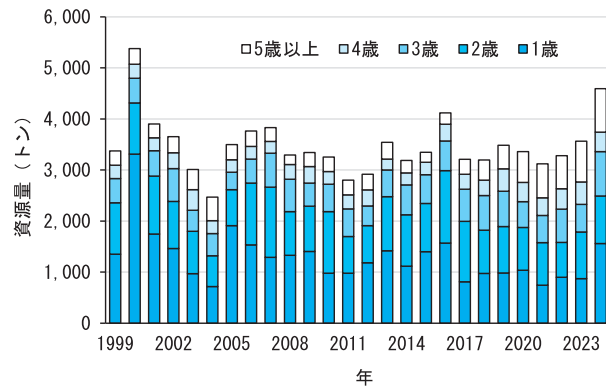


図 青森県のヒラメの年齢別資源量の推移

## 資源の動向と水準

青森県の資源量は 2000 年に 5,379 トンと 1999 年以降最高となったが、翌 2001 年に減少に転じ 2004 年に 2,466 トンとなった。2005 年に 3,497 トンに増加し、以降は増減しながらも横ばいであったが、2022 年から増加傾向となり、2024 年の資源量は 4,593 トンであった。

2025 年の資源動向は、コホート解析により推定した資源量の 2020 年～2024 年までの直近 5 年間の傾きから増加と判断した。資源水準は、推定した資源量と過去の漁獲量の推移を判断材料とし、高位と判断した。



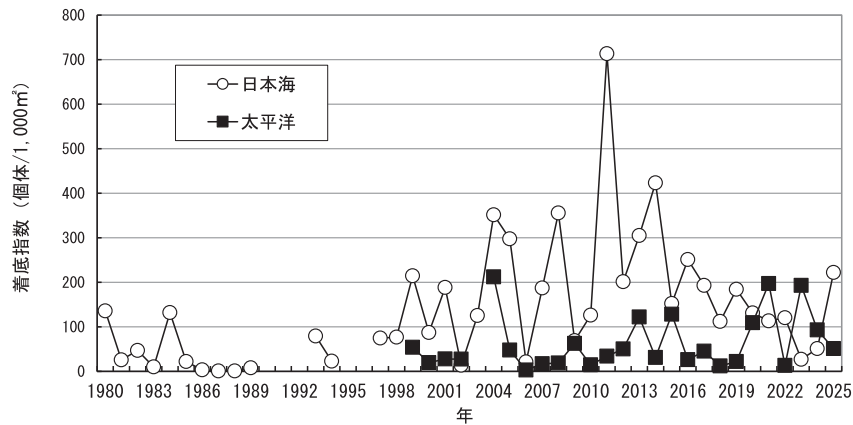


図 青森県におけるヒラメの着底指数の推移

(日本海ヒラメ稚魚発生量)

2025年のヒラメ稚魚の着底指数は222で、1980年以降の平均値141を上回る水準であった。

(太平洋ヒラメ稚魚発生量)

2025年のヒラメ稚魚の着底指数は51で、1999年以降の平均値63を下回る水準であった。

\*着底指数：発生量の指標値。日本海はつがる市沖、太平洋は三沢市沖で夏期に着底稚魚調査を実施。水深別の平均分布密度（個体/1,000m<sup>2</sup>）の年最高値。

### 海域別漁獲量及び漁獲金額

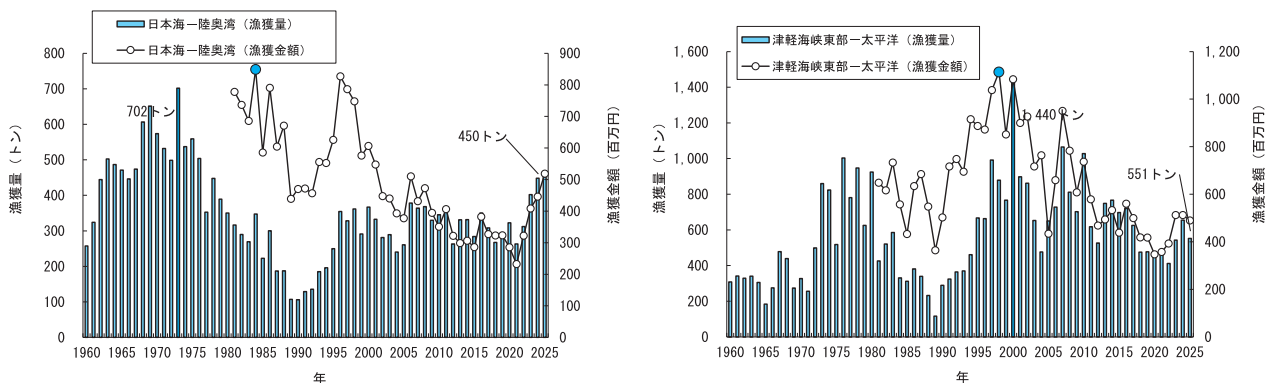


図 青森県におけるヒラメの海域別漁獲量及び漁獲金額の推移

\*日本海-陸奥湾海域：大間越漁協から小泊漁協に、津軽海峡西部の竜飛今別漁協、三厩漁協、陸奥湾の外ヶ浜漁協から脇野沢村漁協を含むものとした。

\*津軽海峡東部-太平洋海域：階上漁協から尻屋漁協に、津軽海峡東部の佐井村漁協から岩屋漁協を含むものとした。

### 資源を上手に利用するために

○青森県における自主的管理措置等（青森県全域）

- ・全長 35cm 未満個体の再放流の他、刺し網漁業についてはかれい網の目合制限（3.5 寸以上）、三枚網の禁止、留網の禁止などを実施している。

☆上記の取組を継続することが必要である。

### トピックス

- ・1988年に「県の魚」に制定される。
- ・年間100万尾の計画で種苗放流が行われており、2025年の放流尾数は100.4万尾。